

136
50
197

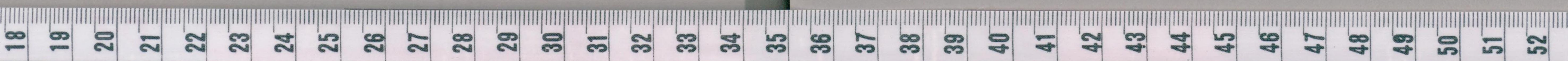
刻官

孝義録

阿波 糸川 漢路

三九

高橋 齋藤



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用

136
50
197

東 京 図 書 館				
五	三	三	傳	和 書 門
冊	八	函	記	
冊	號	架	類	

官刻
孝義錄

紀伊
淡路
阿波

卅九



由國朝

孝義録卷之二十九

明治九年文部省交付



紀伊國

孝行者

紀伊殿領人
各草郡和佐中村

百姓

源之序

歳不知

天和二年
褒美

孝行者

日領
牟婁郡奥越尾尾林村

百姓

久之湯

歳不知

天和三年
褒美

孝行者

日領
若山城下名領町

町人

六所在

四十四歳

貞享二年
褒美

孝行者

日領
各草郡夫田村

百姓

金之湯

歳不知

元禄四年
褒美

孝行者

日領
若山城下本町

町人
若山城下本町

名不知

歳不知

宝永二年
褒美

孝行者

日領
那賀郡高塚村

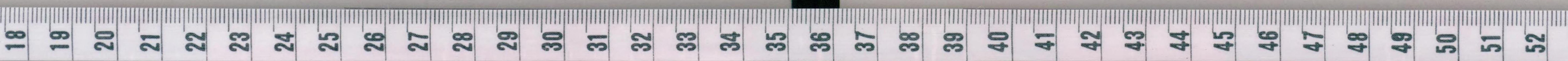
百姓

長次序

歳不知

宝永二年
褒美

孝義録卷之二十九



孝行者

日頃 若山城下廣瀬八百屋町

町人

助三郎

寶永六年 喪 貞

忠義者

日頃 元家末

西尾長定時法光下女

七女

享保二年 喪 貞

孝行者

日頃 那支那粉河村

百姓借左位

富三郎

享保二年 喪 貞

孝行者

日頃 牟婁郡田造南新町

町人 頼治助左馬助

次三郎

享保六年 喪 貞

孝行者

日頃 日所

次三郎妻

三郎

日時 喪 貞

孝行者

日頃 海士郡安代組小原村

左衛門

久之史

享保九年 喪 貞

孝行者

日頃 那支那宮村

田田百姓

勘四郎

享保十年 喪 貞

孝行者

日頃 那支那尾崎村

百姓長左馬助

三郎

享保十四年 喪 貞

孝行者

日頃 日所

日

三郎

日時 喪 貞

孝行者

日頃 那支那山崎組中崎村

百姓

太左馬

享保十五年 喪 貞

孝行者

日頃 若山城下佐吉町

町人 借左位 借左位 借左位

三郎

享保十六年 喪 貞

孝行者

日頃 谷草郡栗栖村

醫者 田中南仙娘

三郎

享保十七年 喪 貞

孝行者

日頃 左田郡上津木村

百姓 太郎左衛門

三郎

享保十八年 喪 貞

孝行者

日頃 谷草郡小掛田村

百姓

三郎

元文三年 喪 貞

孝行者

日頃 若山城下新堀五次郎町

町人

重右馬

元文三年 喪 貞

孝行者

日頃 谷草郡紀三井寺村

百姓 幸左衛門

三郎

元文四年 喪 貞

孝義録卷三十一

二



孝行者 日頃 名草那中為村

孝行者 日頃 那支那別所村

孝行者 日頃 牟婁那奧然北山浦

孝行者 日頃 牟婁那奧然北林上村

孝行者 日頃

孝行者 日頃 若山城下長谷町

孝行者 日頃 那支那粉河村

孝行者 日頃 若山城下東中間町

孝行者 日頃 若山城下北町三丁目

孝行者 日頃 若山城下坊三町

孝行者 日頃

孝行者 日頃 名草那名三浦

孝行者 日頃 那支那上野山村

孝行者 日頃

孝行者 日頃

孝行者 日頃

百姓次郎古為娘

百姓

百姓日雇稼

百姓

町人借屋位

町人借屋位

田百姓四郎多房娘

町人日雇稼

世人 三十歳

甚太郎 寛保三年 喪

七 延享二年 喪

甚右衛門 延享四年 喪

七 日時 喪

甚右衛門 寛延元年 喪

六 寛延二年 喪

甚右衛門 宝曆五年 喪

太右衛門 宝曆八年 喪

若弥 宝曆九年 喪

ゆき 日時 喪

志 宝曆十二年 喪

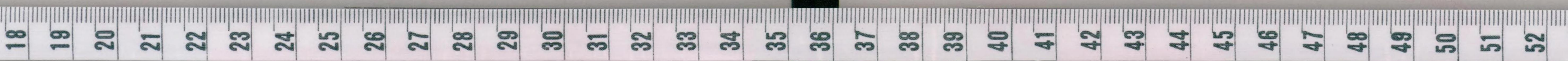
甚右衛門 明和三年 喪

孫之丞 日時 喪

七之助 日時 喪

加 日時 喪

孝義録卷三十九



孝行者

日頃 若山城下大作町

町人 若山若夫の孫家

ろく

明和四年 褒賞

○孝行者

日頃 牟婁郡奥越前桃崎村

百姓

半六

明和四年 褒賞

孝行者

日頃 若賀郡中山村

百姓

美作

安永元年 褒賞

孝行者

日頃 日所

町人

七人

日時 褒賞

孝行者

日頃 若山城下本町九丁目

百姓

武八

安永四年 褒賞

孝行者

日頃 牟婁郡奥越前桃崎村

百姓

長平次

安永元年 褒賞

孝行者

日頃 日所

百姓

幼平

日時 褒賞

孝行者

日頃 日所

百姓

五郎

日時 褒賞

孝行者

日頃 名草郡栗村

町人

傳吉

安永元年 褒賞

忠義者

日頃 若山城下寄合町

町人

若吉

天明二年 褒賞

忠義者

日頃 日所

町人

文吉

日時 褒賞

孝行者

日頃 若山城下東田中町

町人

長七

天明二年 褒賞

孝行者

日頃 若山城下湊下町

百姓

長七

天明二年 褒賞

孝行者

日頃 海士郡宇須村

百姓

濃之清

天明四年 褒賞

奇特者

日頃 名草郡南永植村

百姓

九郎右馬

天明四年 褒賞

孝行者

日頃 形賀郡九栢村

百姓

七郎

天明六年 褒賞



忠義者

日頃 海士郡国戸村

孝行者

日頃 若山城下裏町

孝行者

日頃 那賀郡古和田村

孝行者

日頃 若子郡尾崎皮田村

孝行者

日頃 那賀郡湯窪村

孝行者

日頃 若山城下新中通町

孝行者

日頃 那賀郡西山村

孝行者

日頃 若子郡栗栖玉島村

百姓劫去孫子代

年有馬

天明七年 喪災

町人信原住孫子後家娘

の

天明七年 喪災

百姓持田孫後家娘

小

天明七年 喪災

百姓久六後家娘

若

天明八年 喪災

百姓

つち

天明八年 喪災

町人信原住之七後家

せ

天明八年 喪災

百姓十之孫娘

源

天明八年 喪災

全田百姓

源

天明八年 喪災

孝行者

日頃

源吉妻

つち

日時 喪災

孝行者

日頃 若子郡枕流村

百姓小七娘

せ

寛政元年 喪災

孝行者

日頃 若山城下新通町

醫者

道

寛政元年 喪災

孝行者

日頃 海士郡今福村

七田百姓

次

寛政元年 喪災

孝行者

日頃

次八妻

志

日時 喪災

孝行者

日頃 若山城下守合町

若子

若

寛政元年 喪災

孝行者

日頃 紀伊郡家老安原幸力領分 牟婁郡十九瀬村

大工

源

宝曆十一年 喪災

孝行者

日頃 牟婁郡岩田村

百姓

市

明和七年 喪災

忠義者 日頃 田邊城下日色町

町大車考多屋平次下男 孫助 四十九歳 安永二年 褒賞

孝行者 日頃 牟婁郡高瀬村

百姓幼少善業 法之 四十二歳 安永二年 褒賞

孝行者 日頃 牟婁郡内門村

百姓五八才 幸也 歳不知 安永四年 褒賞

孝行者 日頃 牟婁郡生馬谷

百姓 若七 歳不知 天明四年 褒賞

兄弟睦者 日頃 田邊城下本町

町人操屋 勘九郎 六十二歳 天明六年 褒賞

孝行者 日頃 田邊城下下長町

町人若代屋傳彦屋 十一歳 天明七年 褒賞

孝行者 紀伊郡家老水持對馬守 在田邊東丹生村

百姓七才善後家 名不知 五十四歳 享保三年 褒賞

孝行者 日頃 牟婁郡栗須村

百姓 傳四郎 歳不知 宝曆七年 褒賞

孝行者 日頃 在田邊星尾村

百姓 吉之勝 歳不知 宝曆十一年 褒賞

孝行者 日頃 牟婁郡折原村

百姓 長次郎 歳不知 天明元年 褒賞

奇特者 日頃 高野山慈眼院 伊勢郡东富中村

百姓 名廻次郎在馬 歳不知 寛延三年 褒賞

奇特者 日頃 日所

百姓 次郎在馬 歳不知 天明元年 褒賞

奇特者 日頃 日所

百姓 日孫 次郎在馬 四十六歳 寛政二年 褒賞

孝行者源三郎

源三郎も名草郡和佐中村の小百姓なりと二載に
 父小をこれ二人の兄とせ成りしとき此婦あり
 病を多しし源三郎に母とよせし種子とよ
 實しきつて母よつて孝ありきこと知れ
 時友とらうは法をくみり新牛を飼ひ此乃喜
 ぶたの格心し源三郎ハ業とて母此喜ひのそ
 とけとおきや人とあはれ侍ひ三度の飯くみ時
 と婦乃手とて次母の老衰へく母の病をよむ
 事くあはれ衣此老入或はぬくれの起す髪ゆ

孝義録卷三十九

二



半海もも稚子をこつらうあましく文の秋への
 裸よあつて寝衣をあましく先母をいひさせしうるは貴
 度とあましくぬをまのされまの秋風をいひされおとせ
 経よりあましく枕をやとくし経しうる形しあましく母
 の解ある及給の類いさあれあましく所をいひし直疾
 をとりく来り事つ田畑よおとせしけし直さくいつか
 ととも二度二度英吾ととも道指乃終造とて人丈に
 おあましくさあまのましとれもさあましくむさる母
 とおめしと久しとあましく居しとあましく人てうも
 知るべきあましく城下よ用あれ時を母れ侍のりんとあま

てををいひさうとくく夜宿たうとくくあましく人せ
 事いあましくさあまの母乃あましくあましくわく
 のさあましくあましくとあましくあましくあましく
 とくく大やう人のさあまのあましくあましく隣里乃
 入くもあまの孝心よ感し力とあましく彼うあましくを扶
 けしうつあまの領主にさあまのえとれは天和二年とあましく
 まと田地をいひさくあまの孝行を貴せらあましく

孝行者吉録

若山乃城下坊主町のうらぬにとあまの盲人吉録とあまの
 ゆきことあまのあまのあまの孝行をうる家貧く按摩とあま

孝義録卷三十一

七



坂へりし申もよしと宝曆九年より一歩一歩と歩み入る
一人の生涯をぬれしとこれと

孝行共事六

手曇那奥徳野桃崎村に生れしと一歩一歩百姓あり母にを
是父より人あり孝たう父多病ありして田畑を
も多し人より賣りてかゝ所ある畑乃こころを
小家を借りておら小賣く書しと生れしと初き時
抱瘡ありて斤目と名をされしとみえらるるに
しこ是乃病ありて歩むのまゝありしと目より
米下浦といふ所にて私物とやら運ぶと其價をいふ

父を養ひしと米下浦に生れしと此のりあり
とれしと山坂をいふ物とて飯と炊く父より
とれ又豆飯をいふ畑とて並にといふ人日粒と
とてわくわく歩むをいふ私をいふに私をいふ
わくわく後夜食と申うけしと先づわくわく洪あり
と後漢川ありて村里に生れしとえ糧をぬれ隣り
とて米麦ふとていふと父の食半と申うけ
とれしと芋大根のこころいふ父はよ海と好
とれ一日ありて米下浦より買きていふとこれ
私物乃賃後より金とて海とていふとこれ



若廻次郎右馬のハ伊都郡東富貴村にて高七十石りともる百屋
 中の正徳四年より享保二年ふりつゝゆる村の中園露く
 正中の事たのれと田畑と猪麻と踏あらしとせしと次郎右馬
 カとくり入事とあしにふせとこつ程もさへへて此
 地を領せよ高野山乃年預坊のりこふ志らへつらひと
 一村の事たのれと貞とゆれへん事とあつてつらひ次乃
 使よりして田宅より出定とせしゆかへつらひ富貴村の
 池とくしとあしとあつたれとあふらふよりつらひのりもあつ
 且つと次郎右馬の志らふとあつて日十年正月次郎右馬つと
 年預坊よりつらひ新まに池のり事とゆふし人吏

と用る敷をさしつゝあふ人も用る毎つとつらひゆ
 うせく日あつてつらひ池田とありしと長く村のり事とあ
 とあつてつらひ正徳より享保よりつらひまつく道この橋
 乃とつらひと次郎右馬の力とつらひつらひつらひつらひ
 款事とも敷あつてつらひ屋敷とれ貞を減つとつらひ
 正徳同十年には新預坊より沙汰より村のり事とあつても
 年預次郎右馬のつらひつらひつらひつらひつらひつらひ
 とせしと耕とつらひの定先とつらひつらひつらひつらひつらひ
 するともあつてつらひつらひつらひつらひつらひつらひつらひ
 次郎右馬のつらひつらひつらひつらひつらひつらひつらひつらひ



義とあれまゝにまゝに年十四石つゝ村の貴あつと二人
 つゝあつた海人は是を村よりちれぬ僕りんとつゝ
 とらけまゝにこれよりあつたつゝあつたつゝあつた
 ちりけ村を救はんまゝあつたつゝあつたつゝあつた
 のちりけと人々志をりつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 二分をうけつゝあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 小まゝあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 日月洪ちつゝあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 力減りつゝあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 ちりけと人々志をりつゝあつたつゝあつたつゝあつた

はまゝにひまゝに村より困窮とあつたつゝあつたつゝあつた
 乃人多くあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 院は位牌とあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 預坊より次第右馬より入奉りて山林の支配とあつた
 に年餘坊よりあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 のちりけと人々志をりつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 ちりけと人々志をりつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 つゝあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 右馬と源く信とあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつた
 以て氏祿の祿号とあつたつゝあつたつゝあつたつゝあつた

孝義録卷三十九

十二



孝行者 日頃

坂中町妻

なつ 日時 寛政元年

孝行者 日頃 津名郡洲本通筋外町三丁目

坂中町 寛政元年

孝行者 日頃 津名郡洲本下三丁目

貞吉 寛政元年

孝行者 日頃 二系郡福井村

武平 寛政元年

孝行者 日頃 二系郡安住寺村

市茂 寛政元年

孝行者 日頃 津名郡下田浦

石右衛門 寛政元年

孝行者 日頃 津名郡船系上村

志也 寛政元年

孝行者 日頃 津名郡洲本通筋外町三丁目

吉之助 寛政元年

忠義者 彦田所

彦田所ハ津名郡洲本通筋外町六丁目北高入に内を二右
邊の通りより下敷より生れハ二系郡上八木村のむねを
知さるるは二右邊つよはくハ二十四年ハひひゆ移んころハ
勤勉者の常に忠義をこころをせらるるをうらやましく
さし小ねらふりたりとせせしくハ二右邊のむねのむね
思ひていさくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
主も感して幸以まめやうにハ人ぬきく家ともつら
らうらく人ぬれと貪くハ別母家あころんもいふ
海うや久今よりと後とつらつら當をともあつらぬ



初我々を定めりよとて我々を命ずり出んは一人として
 是れをいへ給らんや是れを命ずらんや和さくはつと
 うけし母君の先途をとりてはばかしくあれは我々の
 事やまへて心にふけりていふことと後を城下をいま
 て物うりてあめりきし程よ主人もいふく憐れ附本
 ことよりぬきとてかぬぬのまはれとて入はるひて
 から此利便とせよといふはあはれとなりしひひはは
 常に物うりてあめりきし程よ主人もいふく憐れ附本
 又も前裁はれりし此野菜やうの物もく植つてむか
 主乃産業とていふもぬくては右藩の病よけしと

首を高くを勵むも骨造りはよ海ともいふ夜は
 ちりりし夜もさうか抱し一時的な男といふ事
 かうし終ふまはせぬものもあつて右馬といひ
 借金して古の器物あつていふこととあつてあつて
 乃使つてあつて移らりし先よかす決心をして
 すけしはなまは母と懐く衣履をいふはまは母の
 事成りしと給へて我々の外れなる目とあつていふ
 こととあつていふこととあつて又主の妹乃あつて
 何内を法有馬といふの妻にあつていふこととあつて
 こととあつていふこととあつて又主の妹乃あつて

孝義録卷三十一

十一



あれを費とらふはよむへ〜とあるつわの清右衛門
許ふらふせらり〜と後今のと右衛門も又死よらふ
乍の石をいへるこふす〜とかくま乃衣披とらふ
其の費ふあゝん〜とさる〜とさる〜とさる
か〜と〜と〜と此中の費とらふ〜と
うお附とら〜と恨とら〜とあつら〜と宝曆二年領事
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

阿波國

孝行者

松平阿波守領分
那賀郡岩服村

熊治

次左衛門

正徳元年
褒賞

孝行者

日所領

百姓

名不知

日時
褒賞

兄弟睦者

日所領
板野郡安田村

貞節者

日所領

撫師

長右衛門

日時
褒賞

孝行者

日所領
海部郡完喰浦

孝行者

日所領

百姓

佐次郎

元文元年
褒賞

孝行者

日所領
板井郡大佐泊浦

百姓

勘六

元文二年
褒賞



孝行者 日頃 海部郡相川村

孝行者 日頃 名東郡中村

○孝行者 日頃 名東郡上八方村

孝行者 日頃 膳浦郡方上村

孝行者 日頃 美馬郡眼町

○孝行者 日頃 名東郡中村

孝行者 日頃 美馬郡一字山

孝行者 日頃 海部郡日和佐浦奥河内村

百姓

百姓

醫者

百姓

町人

百姓

仁田百姓

仁田百姓

吉左衛門 六十三歳 宝曆十一年 喪

八右衛門 六十四歳 明和二年 喪

瑞助 四十六歳 明和二年 喪

清五郎 十八歳 明和二年 喪

湯淺孫五郎 四十八歳 明和二年 喪

佐次五郎 七十九歳 明和二年 喪

与左衛門 五十七歳 明和二年 喪

林三郎 四十三歳 明和六年 喪

孝行者 日頃 佐島城下南大工町

奇特者 日頃 佐島城下藍屋町

奇特者 日頃 佐島城下紀伊町

孝行者 日頃 佐島城下南大工町

孝行者 日頃 那賀郡西路見村

孝行者 日頃 日所

孝行者 日頃 那賀郡橋浦

孝行者 日頃 日所

町人 平石左

町人

町人

町人 伊左

百姓

仁田百姓

仁田百姓

吉左衛門 四十六歳 天明五年 喪

松浦武左衛門 四十歳 天明八年 喪

二本金左衛門 五十歳 天明八年 喪

理五郎 四十二歳 寛政元年 喪

徳右衛門 四十三歳 寛政四年 喪

加三郎 四十二歳 日時 喪

字三郎 三十三歳 寛政四年 喪

死後 日時 喪



孝行者

日頃 勝浦郡中田村

百姓

虎右衛門

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 勝浦郡大松村

百姓 長谷川氏後家

多子

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 海部郡大里村

百姓

勘七

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 勝浦郡江田村

百姓

長右衛門

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 日所

長右衛門

七左

日時 褒美

孝行者

日頃 勝浦郡江田村

五人組

武八郎

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 海部郡日和佐浦

五人組

記助

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 那賀郡答島村

全田百姓

市蔵

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 日所

市蔵

七左

日時 褒美

奇特者

日頃 板野郡中島浦

浪人

文作

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 美馬郡森中島村

庄屋

住友九右衛門

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 徳島城下二軒屋町

町人借屋位呼屋

類之助

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 徳島城下佐古町土町目

町人借屋位新居屋

七

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 徳島城下佐古町土町目

町人借屋位差屋

金蔵

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 麻植郡東門田村

百姓

曾右衛門

寛政四年 褒美

孝行者

日頃 麻植郡東川田村

百姓

宇山本平

寛政四年 褒美

○孝行者

日領 徳島城下依古町六丁目

醫者

武市良策

寛政四年 褒賞

孝行者

日領 名東郡北淡浦

馬士

若菜

寛政四年 褒賞

孝行者

日領 徳島城下中町

町人 借倉住山下屋休左衛門

早歳

寛政四年 褒賞

兄弟睦者(長右衛門)

長右衛門は板野郡新田村の百姓なり兄を作嘉徳といふ
一愚を信ずるものも世變りて其業をあらは長右衛門は
信乃中買ひてて信乃を養ふに信乃は信乃の母を養ふ
とす信乃兄小つて日毎の月夜はとて兄にゆいゆい
おききしおれをうとす其身は才免とてその村よりて
人乃信漢をかりて信乃を具せしとて人兄其妻子をも
よひて入て親族をあらは家族多くあつらんや
ゆいゆい信乃をいへておとつてゆいゆい信乃は仕損
なれぬのちは長右衛門の卜部とあつても兄といふ

くさるん事あり年頃乃移るる事とて母もこれとて
 母も之を養ふれのとて業をせけり終小終るは
 隆漢をもむひとて家まゝとて建ふ見う家族とて母あり
 年もやあつをあらえ夫婦ふもと合をくわ人ありけ
 りあつとて夜と造りて回くとて見う下新はとて
 く隆漢乃働とてあつたれとて乃事ハ兄の夫婦は海
 へとてあつはとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 二人は女子れありたれをものつ力あつて進ふとて先とて
 兄はとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 是とてはとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

志うたつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 又は兄よとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 じつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 やうたつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 眼指さつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 鏡をとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

孝行者佐次之傳

海部郡元喰浦乃漁師佐次之傳ハ家極く貧しく老
 弱をたつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 くとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて



人となりし母はなほも物程とて思はれよ
わし我子に扱はれしもつらき事なり
二人の女ありてふを二人の嫁とせし一人乃力ありて家
に女抱しとて常々母を養ひてつらき事なり
家族もつらき事なり母を養ひてつらき事なり
妻をも具し次母を養ひてつらき事なり
ふらき事なり母を養ひてつらき事なり
湯茶食物もつらき事なり母を養ひてつらき事なり
ふらき事なり母を養ひてつらき事なり
ふらき事なり母を養ひてつらき事なり

費をうけしとてつらき事なり母を養ひてつらき事なり
し飲食もつらき事なり母を養ひてつらき事なり
せしめをてつらき事なり母を養ひてつらき事なり
あまのつらき事なり母を養ひてつらき事なり
くしや農業の勤もつらき事なり母を養ひてつらき事なり
し食物もつらき事なり母を養ひてつらき事なり
九十歳よりつらき事なり母を養ひてつらき事なり
ふらき事なり母を養ひてつらき事なり
身もつらき事なり母を養ひてつらき事なり
しつらき事なり母を養ひてつらき事なり

孝義録卷三十一



てあつて先叔母と志をこめて記し菓子又は麦粉の類
とどろめ厨乃毎とひまて蒸ふをこけしつ寶曆七年
九月六十一のまうりもあけらる格女つこもこくをこけしつあり
ぬ父を酒と候とば好りふよりりて市のゆらこりは
わさ瓢よ酒をわしと東あしをむらと父乃あはれを
そく先くうはこを後とこくつこひてむらに候人並又
候らふあしも好くゆらく春ぬらるるとまらたさ
らちよ束り入りぬ胡と家長乃暖らると服く父は
是と色とを好むと縁結つ川を海とひく田畠の稼
母おゆ記すとこも休くとをこけしつこりもなつて父と

九十とあえく英永二年六月とをたぬと後と席あひ
候とあら小家なれと父つ孫よ記外せと席よは是と
も好むと久又父母のありし時とをも具して親しと
出入らふ家とを好む志とをこけしつたて業の言よは
必ゆして門松とを春の役とをりて西蘭をよはと家
の墓の磨拂ふると年毎よ常とをりて市よ出ぬら時
と必とららるる西用とをこけしつ後川下部のとあし働と
あしと價とをこけしつあしとけとわと後ハ食おらる
産とれの業とをあしとを好むとあしとを好むと
えとらるるつと好む村里れ交りて睦とらるしと



他乃里の人といふと、
たうりしこそ又田畑は
てあふれ畑よりいへ
いふと、
敷きよひつと、
あまの門とすれ又と
乃りぬまゝとすり
拭ふと腹てま秋し
りなうたうりし
技おとと人こそ

孝行者長右衛門

勝浦郡江田村乃百姓長右衛門ハ父の世より田畑かく人の
田を預りて作りまゝと舟乗してを成流せり父を六
酒は好むけと家費くして價も常に走りて
性来とる小松浦浦とつ所よりそのなれ海うる家
くと先くうあ父の酒をあらんよ、價もくとも好ま
海をまわれと親とを死と死後とく確ひくま
僕ひと死後とつと死海うる家よてもむく
も長右衛門の妹とを門とつひく兄と向く孝義と



136
50
197

孝義録卷之二十九

孝義録卷之二十九

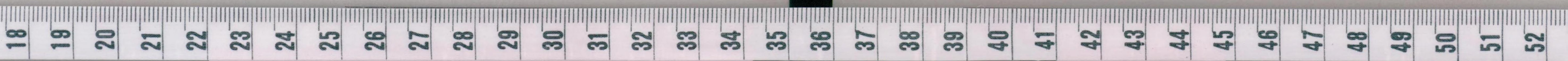
三十一



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

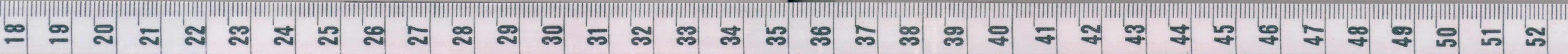
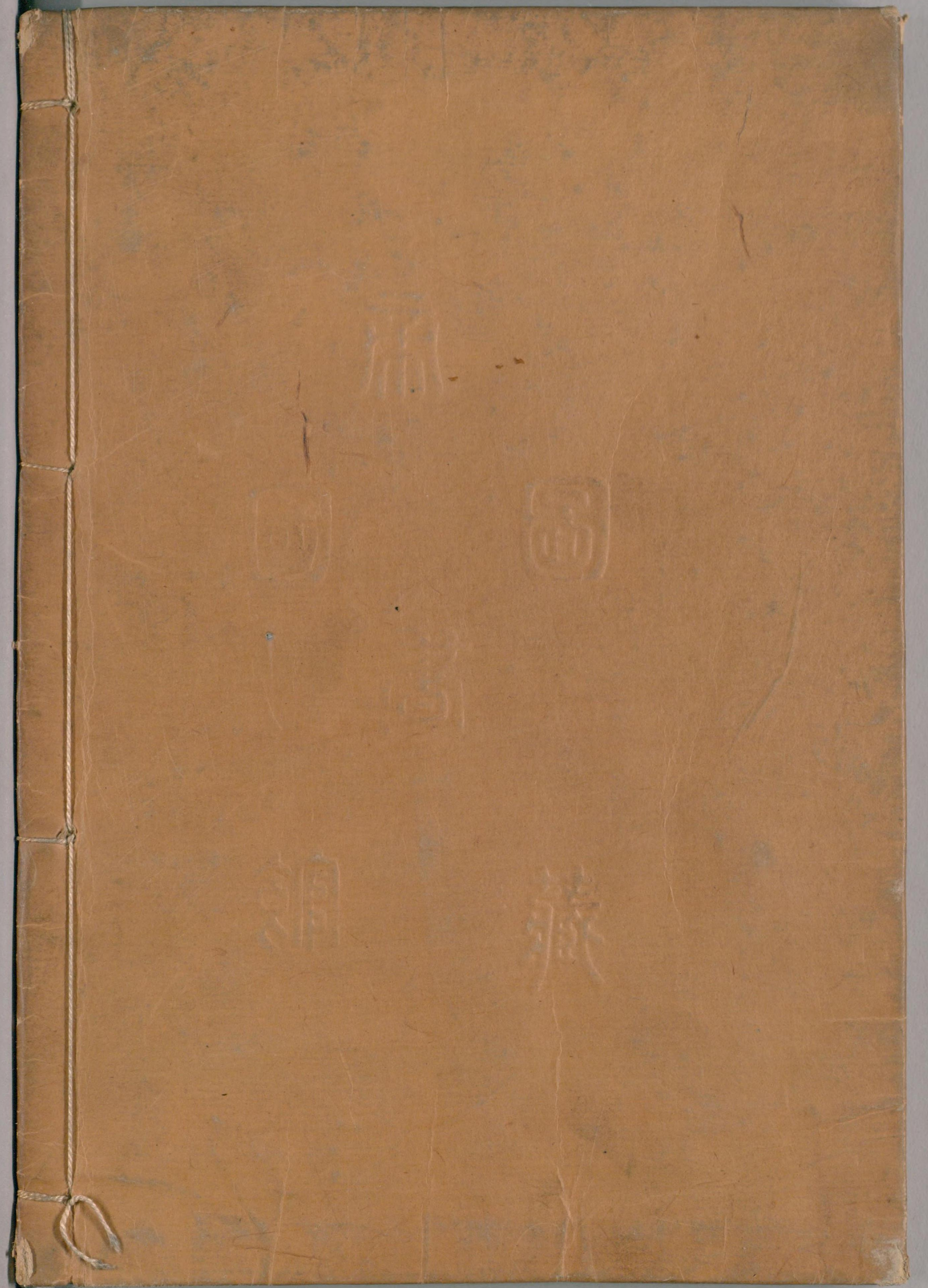
ガラス使用

136
50
197



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用